

趣味模索中！

島田 康恵



趣味の時間を...という言葉に耳にしますが、私自身、「これが趣味」というものはありません(>_<) いままでは、子供の学校や部活の送り迎えに合わせて動いているうちに、自分の時間はこま切れ状態に...。そんな時間を活用して、読書をしていました。最近になって、まとまった時間がとれるようになってきたので、自信を持って趣味と言えるものを見つけようと、いろいろなことに手を出しています。もともと、手芸やパズルなど一人で静かにすることが好きなので、編み物、レース編みだったり、ペーパークラフトだったり、刺繍だったり、とにかく手にしてみても、まだまだこれといったものに出会えてないのが現状です。何かおすすめがあったら教えてください！(笑)

私のつづやき

最近の...



永戸 良宗



土曜日は、卓球にハマっています。高校の時の思い出しつつ、動かない体と毎週格闘をしています。とは言っても高校の時より少し大きめのボールで、しかもボールの速さは遅くなっているのですが... (笑) 11月には久しぶりに大会にも出場できそうなので、それまでには少しでも体を動かせる様に練習をしていきたいと思ひます。今は、水谷選手や張本選手などのお陰で、卓球がブームです。ブームの波に乗れる様に、練習に励みたいと思ひます！！

かけはし

Vol. 34 秋号 2017年10月



特別講演会にて

10~12月の税務・お知らせ

- 12月は年末調整の時期です。扶養控除や、保険料控除の確認など、早目の準備を行いましょ。個人の確定申告が近づいています。申告に必要な証明書類の保管をお願いします。

お休みカレンダー

Calendar grid for October, November, and December 2017 with circled dates indicating holidays.



コスモス・紅葉・ススキ... 秋の風景を集めてみました(´▽`)/

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号 TEL(0856)23-6116 FAX(0856)23-6674 E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp HP http://annokaikei.com

ビジネスプラン / あんの会計

わたしたちは、たくさんの「ありがとう」を集め、日本の中小企業を元気にします！ ※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。



代表取締役
安野 広明

こんにちは、安野広明です。いつもニュースレター「かけはし」をお読みいただき、ありがとうございます！

去る9月15日(金)、毎年恒例のビジネスプラン特別講演会を開催いたしました。お陰様で、約400名の方々ご参加下さり、大盛況に終えることができました。今回の講演会では、多くの皆さんが、「挑戦する勇氣」を手に入れたのではないかと思います。講師をおつとめいただいた、海洋冒険家の白石康次郎先生、上田ビジネス情報専門学校の比田井和孝先生をはじめ、お越し下さった皆様に、心より感謝いたします！

また、同封のチラシにもございますように、来年1月3日(水)に、当社の地域貢献活動としての「コメディ・クラウン・サーカス」を開催いたします。「冬休み、遊びに行く場所が少ない地元の子供たちに、サーカスというイベントを通じて、ご家族と一緒に地元で楽しい思い出をつくり、ひいては、愛郷心を育ててもらいたい」という想いで、毎年お正月に開催しています。こちらも、前回開催時には、満員御礼でチケットが完売したほどの人気イベントですので、お早めにチケットをお買い求め下さい(笑)。それでは、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします！！

「挑戦している姿が、魅力を生み出す」



先日、当社の特別講演会でお話いただいた海洋冒険家の白石康次郎さんは、「人から応援される天才」だと思います。なにせ1回のヨットレースに必要な資金(3~4億円)を、超有名企業がスポンサーにつくでもなく、周りからのたくさんの支援によってゼロから集め、レースに参戦される訳ですので。支援する人(または会社)は、ほとんどが、「白石康次郎という人間を応援したい」という想いで、投資しているはずで。

では、この、白石さんの魅力とは、一体何なのか！？
先日、講演会に参加された方は、肌で感じるのではないでしょうか。

ちなみに、個人的には、飾らないお人柄や考え方(=物事の捉え方)など、たくさんの魅力がある中でも、やはり、「挑戦し続けていらっしゃる姿」こそが一番の魅力だと思っています。

以前、NHKBS1スペシャルのインタビューで、白石さんが、「人類最小単位の1人で、でっかい地球に挑戦したい」と、目を輝かせてお話しされている姿を見た時には、正直、かなり痺れました。男として、カッコいいし、応援したくなります。

通常は10人くらいでコントロールする船(全長18m、マストの高さ28m)に1人で乗り込み、単独無寄港無補給で世界一周に挑むというのがどれだけ過酷なことなのか、私には想像もつきませんが、まさに最小単位での大自然との戦いと言えましょう。

そうやって白石さんの挑戦されている姿が、人々を魅了し、支援者を集めているのだと思います。

そして、このことは、会社に置き換えても同じです。
なぜならば、会社経営とは、結局のところ、ファンづくり(=支援者集め)のようなものだから。

自社を応援して下さるお客様や地域の方々が多い会社ほど、繁盛するのです。

では、どうすれば応援していただけるかというと、上記のように、(会社として)何かに挑戦し続けていることが、大きな要素になるのではないのでしょうか。

もしもそれが、お客様や地域のための挑戦ならば、なおさら応援したくなるはずで。

特別講演会

平成29年9月15日(金)に毎年恒例となっております特別講演会をサンパレス益田にて開催致しました。



特別出演して下さいました
比田井 和孝 先生

講師の
白石 康次郎 先生

特別講演会初の
夢の対談も実現！



※参加されたお客様の声

- ・受け入れると主導権を握れるという言葉があり、受け入れると考え方が変わり行動が変わる。そして結果が変わるという事を学びました
- ・「人柄が仕事をする」本当にその通りだなと思い、とても印象に残りました
- ・お二人の対談がとても面白かったです

セミナー紹介

平成29年7月26日(水)に『労働対策セミナー』を開催致しました。



講師の
野村 安弘 先生

平成29年7月28日(金)に『経営計画書の作り方』を開催致しました。



講師の
安野 広明

今月の本の紹介



『トヨタで学んだ「紙1枚！」にまとめる技術』 著者:浅田 すぐる

自分自身が残業時間を減らそうと思い、手に取った一冊です。世界の自動車企業のトヨタでは企画書や打合せ資料などあらゆる資料は、紙一枚にまとめることになっているとのこと、トヨタ出身の著者がその経験をも

とに紙1枚にまとめる技術を凝縮して、紹介しています。やらなくてはいけないことや物事をまとめた時に、頭の中を整理するコツが書かれていたり、「漠然と考えるのではなく、まず手を動かすことが大切」など、本書に書かれていることを実践すると得るものがあると思います。私はこれで、メモ魔になりました(笑)。

中島 大吾



逆に言うと、挑戦しなくなった人や組織は、次第にマンネリに陥り、支援者は離れていくかもしれません。

例えば、お客様に、いままで通りの商品・サービスを、いままで通りのやり方で提供し続ける・・・。
まあ、それでもお客様には(ある程度まで)気付かれないのかもしれませんが、そうやってマンネリ化すればいつかは飽きられるし、他に魅力的な商品・サービスが見つければ、いずれ乗り換えられることでしょう。

挑戦をやめ、マンネリ化した組織に未来はない・・・と強く感じています。

とはいえ、挑戦すれば、失敗がつきもの。

そんな時の乗り越え方、考え方も、白石さんに学べるところがたくさんあるのですが・・・紙面の都合上、そちらに関しては、またどこかの機会で掘り下げたいと思います(すいません！)。1つだけ挙げるとすれば、「物事を受け入れて、主導権を握る」ということでしょうか。

白石さんのご著書『精神筋力～困難を突破し、たくましさ育てる』(白石康次郎著)にも、ヒントがたくさん載っていますので、ご興味のある方は、是非ご一読下さい。

お互い、挑戦して参りましょう！

「“学んだ人には、学んだ責任がある”という教え」



以前、ある方から、「聞いた人には聞いた責任が、知った人には知った責任が、学んだ人には学んだ責任があるんだよ」と教わったことがあります。

これは、セミナーや研修や講演会や本などで、聞いたり、新たに知ったり、学んだ人は、それらの内容を自分1人の中に留めるのではなく、縁ある人に伝えていく責任があるという意味です。

言い換えれば、そういった場で学べたり、講演を聞けたり、本と出会えたのも、(自分1人の力ではなく、)誰かのお蔭であり、非常に恵まれたことなのだから、それを独り占めにはいけないという話し。

私自身、社員さんが現場を守ってくれるお蔭で、出張し、学びの場に足を運べる訳ですので、このことは身に染みて分かりますし、これからも、学んだことをできる限り社内やお客様に共有していきたいと考えています。

例えば、講演会ひとつとっても、有名講師の話しを生で聞けるというのは、実は、非常にラッキーなことだと思います。聞きたくても聞けない人は世の中にたくさんいらっしゃいますので。

したがって、講演会を聞いて、講師先生のファンになるだけでは、非常にもったいない・・・。「あ～楽しかった」で終わらせるのではなく、貴重な学びを得たからには、それを積極的に、身近な人や縁ある人に伝えていく必要があります。

そうやって共有し、拡散すれば、もしも自分が学んだ内容を忘れてしまったとしても、その言葉が、伝えた相手の心の中で育まれていくかもしれませんし、また、そうして人に伝えていく過程で、学びについての思考が、さらに深まるはずです。

もしも自分が実践していなければ人に伝えられない内容であるとすれば、きっと、自身の行動が促されることでしょう。

そのように考えると、学んだ責任を果たすというのは、いいことづくしですよ(笑)。

「“受動的”ではなく、“能動的”な変化を！」



人は、自分で「変わろう」と思わなくとも、必然的に、変わっていきます。
なぜならば、世の中や周囲の環境が絶えず変化しているからです。

例えば、10年前にはガラケーしか持っていなかった人が、今では当たり前のようにスマホを使いこなしている、なんていうのも、大きな変化ですよ。世の中が変われば、その環境に適應すべく、人も変化するのです。

ただし、上記のような変化は、あくまで「受動的な変化」と言えます。
つまり、周囲からの同調圧力によって、「変えさせられている」ということ。

この場合、例えば、高度成長期のように、世の中が良い方向に変化している時は、変化に身を委ねているだけで、自分もよい方向に変化できるかもしれません。

しかし、逆に、世の中が(自分にとって、)よろしくない方向に変化しているとすれば・・・いかがでしょう？

「受動的な変化」のみでは、将来、自社や自分や家族が不幸に陥る可能性だってあります(汗)。

やはり、幸せは、自分の意思で主体的につかむもの。

いままでのやり方や考え方を変えるというのは、大きな苦悩やストレスがかかりますが、それでも、幸せを追求し、主体的な人生を選ぶのなら、「受動的な変化」を抜け出し、「能動的な変化」を起こす(=挑戦する)必要があると考えています。

「大変」な時代だからこそ、能動的に、「大」きく「変」わっていきましょう！



<安野からのおすすめコーナー>

*このコーナーでは、私が独断と偏見により選んだ、おすすめの本や映画等を紹介いたします。何かの参考にさせていただけると幸いです！

▶▶ 漫画「預言者ピッピ 1、2巻」(地下沢中也 著)

地震予知のために開発されたヒューマノイド型コンピュータ「ピッピ」は、人類の未来をすべて計算しつくし、ある預言を口にします。究極の頭脳が紡ぎ出す預言は福音か、それとも・・・異色のSFストーリーですが、個人的には、起こり得なくもない未来だと感じています。ちなみに、まだストーリーが完結していないのですが、1巻出るのに4年以上かかります(汗)。

▶▶ 小説「無私の日本人」(磯田道史 著)

所収の短編「穀田屋十三郎」は、「殿、利息でござる！」というタイトルで昨年映画化されました。貧しい宿場町の行く末を心底から憂う商人・穀田屋十三郎が、同志と出会い、心願成就のためには自らの破産も一家離散も辞さない決意を固めた時、軌跡への道が開かれます。著者が古文書を読み解き、史実に基づいて小説化した物語りで、当時の人々の生き様に、読み終わった後には、爽やかな感動が残ります。

▶▶ ビジネス書「AIが同僚」(日経トップリーダー 編)

AI(人工知能)と聞くと、人間の仕事が奪われるというネガティブな印象を持つ傾向にありますが、本書では、AIを業務で活用することで生産性を上げたり、創造的な仕事を増やし、競争力を引き上げることに着目し、「AIが同僚」となる2020年の新しい働き方をわかりやすく解説しています。「近未来の常識」として備えるべき知識の詰まった1冊です。

